

あらたな想いをカタチに...

ともにあゆむ



静岡県伊豆修善寺のもみじ林&桂川 楓橋(寄り添い橋)

No. 53 秋号

= もくじ =

- しんど老人保健施設
橋本 健二 施設長就任あいさつ
- 湘南ひらつか花火大会へ協賛寄付
平塚市 落合市長を表敬訪問
- 高齢者の窒息時対応について
講習会を開催しました



◎地域とともに

地域とともに保健事業（予防）・医業・介護福祉事業を展開し地域の健康維持と健康増進を目標として歩みます。

◎関係者とともに

関係機関への情報提供やセカンドオピニオンなど患者様への利益につながるよう努力して歩みます。

◎職員とともに

最良の医療・最良の介護を念頭に患者様、「利用者様の利益につながるよう検討し最良のチームを目指し歩みます。



医療法人財団 倉田会



くらた病院に於いて、高齢者の窒息時 対応について講習会を開催しました

7月31日と8月7日の両日、くらた病院 菅野 靖司院長を講師として、職員を対象に高齢者の食事中に起こりやすい窒息事故への理解を深め、万一の際に適切な対応ができるよう「高齢者の窒息時対応講習会」を開催しました。

講習会では、窒息が起こる原因や症状について学んだほか、患者様を想定し、実際に窒息が発生した場合の対応方法として、「背部叩打法」や「胸部突き上げ法」、ストレッチャーを運び入れ「胸骨圧迫」による心臓マッサージなどの応急手当について、実技を交えながら実施しました。



背部叩打法



胸部突き上げ法



胸骨圧迫（心臓マッサージ）



【制作・発行元】

2026年（令和8年）10月1日発行（No.53//秋号）
医療法人財団倉田会 法人本部 理念推進室
～プロジェクトチーム ともにあゆむ～
〒254-0018
神奈川県平塚市東真土4-5-26
TEL0463-53-1955 FAX0463-53-1957
<http://www.kuratakai.or.jp>

【編集後記】澄み渡る秋空とは対照的に、世の中の行く末はどこか霞んで見えます。先行き不透明な政治の世界や身近な職場でも「どこへ向かうのか」を明確に示す真のリーダーが求められています。混沌とした時代だからこそ、口先だけのリーダーではなく、風の変化を感じ、周囲に耳を傾け航路を示す船長のような存在です。時には面舵一杯切る覚悟と荒波には碇を下ろす冷静さを併せ持つ先見の羅針盤で人を導く姿こそ、信頼を得るのでしょう。もちろん仲間の支えなくして船長だけでは船は微動だにしません。沈みゆく船をただ見守るだけでなく、一人ひとりを尊重し任せることで、其々が小さなリーダーとして自ら考え、動き、風を読み、未来への航路を切り拓く担い手となるのかもしれません。





福澤同花火大会実行委員長（左）落合市長（中央） 倉田理事長（右）

令和8年8月17日に当法人 倉田 康久理事長は、平塚市役所を訪れ、落合 克宏市長に「第74回湘南ひらつか花火大会」の開催にあたり、当法人くらの病院として、協賛寄付金126万円を贈呈いたしました。

平塚の夏の風物詩として、多くの市民や観光客に親しまれている同花火大会への協賛は、2023年に当法人100周年を機に地域を代表する夏の一大イベントの開催を支援するとともに、地域の活性化やにぎわいの創出に貢献との思いから協賛寄付を続けております。

くらの病院 湘南ひらつか花火大会へ協賛寄付 平塚市 落合市長を表敬訪問

倉田理事長は「ともにあゆむを理念に、患者様・ご家族・地域・職員が支え合いながらこの100年を歩んで来ました。

次の100年は、地域に利益を還元していければ、今後も素晴らしい活動のお役に立てるよう、今後とも協賛を続けていくこと」をお伝えしました

落合市長から「花火大会は打ち上げ費用や人材も含め開催が難しくなってきたので、大きな力になる」とのお礼をいただきました。

今回の花火大会は8月28日に開催され、当法人くらの病院は、プログラム「オープニングミュージックワイドスターマイン

『歓迎の祝砲 ～ともにあゆむ～』を担当しました。

平塚の夏の夜空を彩るひとときとして、多くの皆さまに笑顔と感動を届け、世代を超えて心に残る素晴らしい夏の思い出となることを願い、花火が打ち上げられました。

花火が夜空いっぱい広がるたびに、会場からは大きな歓声が上がり、地域の皆さまと喜びを分かち合うひとときとなりました。



しんど老人保健施設

橋本健二施設長就任あいさつ



2026年8月1日より、しんど老人保健施設の施設長に就任致しました医師の橋本 健二と申します。特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅をはじめ、世間には様々な高齢者施設が存在しており、各々がその特長を生かした介護事業を展開しています。

そんな中において介護老人保健施設は、高齢者施設においては珍しく（医師のいる施設）であり、医療的判断を求められる側面があります。

利用者様の病状のひとつひとつに応じて、検査（採血、尿検査）、投薬（内服、坐薬、外用、点滴）などで初期対応を施し、初期対応で治療傾向が、みられなければ外部の医療機関を受診し、精査加療の対象となる場合も少なくありません。

その様な流れを作り、またリハビリテーションを可能な限り積極的に施行することによって、利用者様の在宅復帰のお手伝いをするのが、介護老人保健施設の使命と考えています。

勿論、楽しいレクリエーションや行事も盛りだくさんで飽きのこない療養生活が送れる施設であることも付け加えておきます。



当施設は神奈川県事業の「身体拘束廃止推進モデル施設」です。

■日常生活（在宅）に戻るためのリハビリ施設

当施設では、入所者が有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、可能な限り居宅における生活への復帰を念頭に置いております。

看護、医学的管理下における介護及び機能訓練、その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うなど、各課において担当を決め、総合的なケアサービスを提供しております。

■しんど老人保健施設の理念

- ①利用者や家族の“ひと”としての尊厳を尊重する
- ②在宅生活ができるだけ継続できるように支援する
- ③地域社会の一員として社会に貢献する
- ④常にサービスの質の向上を目指す



現在、我が国は大変な高齢化社会となっており、入所する側の利用者様サイドで複数の選択肢を持つておいでです。

是非「選ばれるしんど老人保健施設」であり続けようではありませんか。今後ともよろしくお願い致します。

しんど老人保健施設 施設長 橋本 健二